

鶴

國の鶴春に至り北方に渡らんとする時は、數千里の北海を一飛に越へ行事ゆへに、羽つかれて海中に落んことを恐る、ゆへにや、此屋久島の八重嶽を廻りて、空高く飛上り、虚空に至りて、それより北に向ひて飛渡るなり、中途にて羽つかれて、次第に落るといへども、高くより、飛事ゆへに、容易に海面まで落る事なくして、朝鮮の地方へ付く事とぞ、此八重嶽の絶頂より、猶々舞々して虚空に入事なれば、人の目も及ばざる高くに入りて、はじめて北に向ふなり。

〔武江産物志〕水鳥類 鶴本所千住

〔本草和名十五〕鶴骨、白鶴似鶴巢、陽鳥鶴黑色頸、和名於保止利。

〔段注說文解字四上〕驪驪專逗、畱、如、誰、短、毛、射、之、銜、矢、射、人、見釋鳥、釋鳥作鶴、郭云、又名、嬰、羿、

釋文、變古以爲、解情、字、言、此、鳥、捷、勁、雖、羿、之、善、射、亦、懈、惰、不、致、射、也、鄭、注、周、禮、設、其、鶴、云、謂、之、鶴、、者、取、名、於、雅、鶴、雅、鶴、小、鳥、而、難、中、按、當、是、此、鳥、驪、音、近、鶴、呼、輪、鶴、此、鳥、狀、如、鶴、故、亦、謂、之、雅、鶴、、從、鳥、

藿聲呼官切、事徒端、、藿、切、疊、韻、十、四、部、

〔倭名類聚抄十八族名〕鶴 本草云、鶴音館、和名、、水鳥似鶴、而巢樹者也。

〔箋注倭名類聚抄七鳥名〕新修本草獸禽部中品鶴條注云、鶴亦有兩種、似鶴而巢樹者爲白鶴、黑色曲

頸者爲陽鳥、鶴本草和名引同、此所引即陶注、又水鳥字本草注所無、恐是源君依毛詩東山篇鄭箋

增益也。略、說文作藿、云、藿、小、爵、也、詩曰、藿、鳴、于、垓、按、東、山、鄭、箋、鶴、水、鳥、也、李、善、張、華、情、詩、注、引、韓、詩、

亦云、鶴水鳥也、說文小爵、疑水爵之誤、太平御覽作說文藿雀也、埤雅、鶴形狀略如鶴、天將雨則長鳴

而喜作窠、大如輪卵如三升杯、爾雅、翼、鶴、似、鴻、而、大、長、頸、赤、喙、白、身、黑、尾、翅、別、名、黑、尻、皂、裙、胸、釜、背、竈、

以背尾翅黑爲名也、木上作巢、性好旋飛、必以風雨、本草衍義云、陸璣曰、鶴頭無丹、項無烏帶、身如鶴

者是、兼不善唳、但以喙相擊而鳴、此禽多在樓殿吻上作窠、

〔類聚名義抄九鳥〕鶴俗通、藿、正、水、鳥、、鸚今正、莫、俠、反、又、力、幼、反、、鵲音、館、オ、ホ、ト、リ、、鸚天、鵲、似、鶴、多、聲、オ、ホ、ト、リ、、鶴オ、ホ、ト、リ、、天鵲オ、ホ、ト、リ、、鵲オ、ホ、ト、リ、

鵲二音、オ、ホ、ト、リ、、或、下、正、霜、爽、